



令和7年度 すさき野外博物館



しんじょう

2026. 3. 31
すさき・かわうそクラブ会報
—No.38—
発行：すさき・かわうそクラブ事務局

バッタたちを観察しよう！

11月1日（土）

今回は、バッタや蝶、トンボなどの昆虫を捕まえて、その後捕まえた昆虫の観察を行いました。
まず初めに講師の別府さんより虫捕りをする際の注意事項やあみの振り方の説明があり、その後新荘公民館前河川敷の草むらで虫捕りを始めました。

時期的にあまり虫がいなくてもいいかもしれないと言われていました。が、子どもたちは次々と捕まえ、虫の名前も一瞬で言い当てていました。
採集の後は講師とともに捕まえた虫の名前を確認し、どこにいる虫か、どんな生態かなど、種ごとに説明をしてもらいました。



虫取りと一言にいうても、網で捕まえて、その後網から虫かごに入れる必要があります。かごに入れるようとして逃げられてしまうことも多く、大人でもなかなか難しい作業だと感じました。虫を触ることが苦手な子もいましたが、少しずつ挑戦して、網の上から触ることが出来るようになったり、短時間でどんどん成長する子どもの姿を見られました。
同定作業では、図鑑と自分が捕まえた昆虫を見比べながら、「こっちな、あつちかな」と、どの昆虫かを考える様子がたくさん見られました。親子で一緒に考えたり、講師に質問をしたり、いい機会になったと思います。

冬の野鳥を観察しよう

1月24日（土）

まず初めに講師の濱田さんより双眼鏡を使用する際の注意事項（首からかけて使用すること、太陽を見ないこと等）の説明をしていただき、その後、ピントの合わせ方等使い方の説明をしていただきました。

その後、新荘川の河口へ移動し、双眼鏡や望遠鏡を使用して、野鳥の観察を行いました。河口だったためか風がとても強く、雨も少し降っており、耳や頭が痛くなるほどとても寒く、過酷な環境下での観察会となりました。

今回観察できたのは、カモの仲間、カモメの仲間、サギの仲間、ハシロなどは見ることが出来ませんでした。



野鳥の観察を行いながら濱田さんより専門的な解説があり、自然環境への関心がより高まったのではないかと思います。

近年、屋外で自然に触れながら学ぶ機会は限られている中、野外博物館は、実体験を通じて学ぶことができる貴重な機会となったと感じました。須崎市の自然環境や地域資源を実際に体感することで、参加者が地域の魅力を再認識し、地域を知り、親しみ、好きになるきっかけを提供することができたと考えられます。

